

緩和ケアニュース

第29号

特集：「医療用麻薬について」

～誤解していませんか？～



2013年1月発行
財)倉敷中央病院
緩和ケアチーム

「医療用麻薬」と聞いて・・・ どんな印象をもちますか？

幻覚、幻聴が聞こえ
出したりするんじや
ないだろうか？

強い副作用が
あるみたい・・・

一度、使い始めると止められ
なくなるんじゃないか？

次第に効かなくなっていま
うんじゃないだろうか？

ついに麻薬が始まるなんて・・・
死期が近いのでは？



これはすべて誤解です。

日本ではこれらの誤解のために、欧米先進諸国に比べ、がん性疼痛の緩和等に用いられる医療用麻薬の消費量は少なく、がん性疼痛の緩和が十分でないといわれています。

今回の緩和ケアニュースでは、医療用麻薬に対する誤解を解いてもらうことで、医療用麻薬を開始するかどうかについて迷っている患者さんが少しでも減ってくれればと思います。

1、医療用麻薬とは？

まず、麻薬とは「麻薬及び向精神薬取締法」といった法律で定められたものです。

さらに、その中で、医薬品の基準に従い、国の審査を受け、その有効性、安全性が確認されたものを医療用麻薬といいます。

現在、モルヒネ・オキシコドン・フェンタニルなどの薬が医療機関で使われている麻薬に相当します。世間でイメージされやすい、覚醒剤や大麻など、快楽を得るために乱用されがちな麻薬と医療用麻薬は別物なのです。

2、医療用麻薬の副作用とは？

医療用麻薬には副作用として、便秘、眠気、吐き気などを起こすことがあります。

しかし、これらは、予防薬を使うことで症状をコントロールすることが可能です。(便秘を防ぐには下剤を使用、眠気が強い時は医療用麻薬を減量、吐き気を防ぐには吐き気止めの薬を併用します)

また、吐き気や眠気は、医療用麻薬の使い始めや量を増やした時に起こりやすいのですが、体が慣れてくるとそれらの副作用も軽減します。

その他に呼吸の抑制、排尿障害等がありますが、実際は発症することは稀であり、これらに対しても減量や投薬にて対処することが可能です。

3、死期が近いのか？

これは一昔前、医療用麻薬（モルヒネ）についての知識が少なく、恐れられていたことから、死の直前になってようやく使用されたために生じた誤解と考えられます。

現在ではがん治療の早期から医療用麻薬が

使用されるケースが増加しつつあります。痛みを取ることで、体力や精神力が回復し、結果として寿命が延びているとも言われています。

医療用麻薬を使うことで、社会復帰を果たした方もたくさんおられるのです。

4、医療用麻薬は効かなくなるか？

医療用麻薬を使用しているにも関わらず、痛みが強くなるようになった場合、まず痛みそのものが病状によって強くなったことが考えられます。そのときは医療用麻薬の量を痛みに合わせて調整します。それでも痛みが消失しない場合は使っている医療用麻薬だけでは効かない新たな痛みが生じたと考えられます。そのときは医療用麻薬とは別の薬を合わせて使ったり、医療用麻薬の種類を変えたりと、患者さんの症状に合わせた対応をします。

「効かなくなったら困るから、いざという時のために、もう少し使わずにおこうと」痛みを我慢することで逆に神経細胞が過敏になり、通常量の鎮痛薬では効かなくなる傾向もあるのです。

痛みを伝えてもらうことで、一人ひとりに合った対応で痛みを緩和していくことができます。痛みは我慢せずに伝えてください。



5、最後に

平成24年6月に厚生労働省から出された、『がん対策推進基本計画』では、がんと診断された時からの緩和ケアの推進が挙げられています。痛みを緩和することは、QOL(Quality of Life:生活の質)の維持に不可欠です。つまりは、治療効果、延命効果にも影響を及ぼすことになるのです。

それでも、医療用麻薬を実際に使い始めることを躊躇する方もおられるかもしれません。そんな時は一人で悩まずに、周りの医療スタッフに相談してみてください。

使ってみて、具合が悪くなったので、もう止めたいと思えば、相談の上、止めることも可能です。

一人でも多くの方の痛みが緩和され、しんどくてできないと諦めていたことを、またできるようになってもらえればと思います。

倉敷中央病院 がんサロン（がん患者交流会）

がん患者さんやご家族の方の交流の場です。参加された方々の日ごろの悩みを話し合ったり、生活の工夫について情報交換を行ったりしています。一緒にお茶でも飲みながら、おだやかな時間を過ごしましょう。

がんサロン「のぞみ会」

開催日：偶数月の第3木曜日

時間：10時～11時30分

場所：外来3階の第1会議室

連絡先方法：がん相談支援室

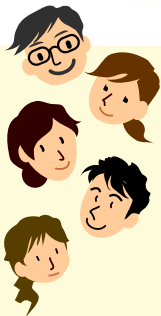
086-422-5063

当日参加も可能ですが、準備の都合上事前の連絡をお願いします。

次回開催日 2月21日（木）



当院の緩和ケアについて



緩和ケアとは、命を脅かす疾患による問題に直面している患者のみなさまやご家族のつらさを和らげ、その人らしさを大切にする考え方です。

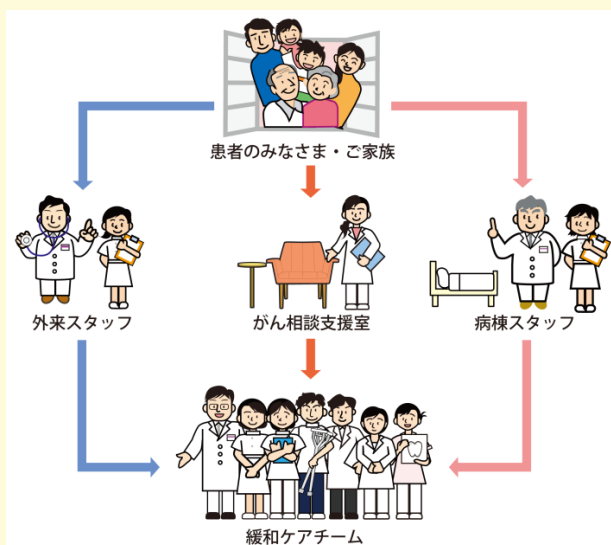
その考えに基づいて、がんなどで治療中の患者のみなさまやご家族が安心して生活を送ることができるように支援するために、当院においては「緩和ケアチーム」がさまざまな活動をしております。

「緩和ケアチーム」のメンバーは、専従医師・がん看護専門看護師・がん疼痛認定看護師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・訪問看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・作業療法士・歯科衛生士などで構成されています。

「緩和ケアチーム」は、治療時期に関わらず、患者のみなさまのからだのつらさ（疼痛・呼吸困難・吐き気など）やこころのつらさ（不安・不眠など）を和らげる治療やケアについてスタッフと一緒に対応します。また患者のみなさまの社会生活やご家族の悩みを含めた包括的なサポートも行います。

ご相談の ながれ

緩和ケアについて話を聴きたい、緩和ケアを希望されるときには、まず主治医・看護師（外来・病棟）・がん相談支援室にお尋ねください。



がん相談 支援室への ご案内

がん相談支援室へご来室される方は、1-8 総合相談窓口（中央玄関をいって左側）へお声かけください



〒710-8602

岡山県倉敷市美和1-1-1

(財)倉敷中央病院

総合相談・地域医療センター がん相談支援室

受付：平日9:00～15:00

TEL：086-422-5063

FAX：086-422-5021

発行元：(財)倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：曾我圭司（医師）

編集委員：石原泰子（がん専門薬剤師）、板谷紀子（ソーシャルワーカー）、井上礼子（看護師長）、
（五十音順）小倉志保（薬剤師）、坂元恵（歯科衛生士）、惣市こずえ（緩和ケア認定看護師）、
原田美雪（緩和ケア認定看護師）